

こんにちは、2年6組文系チームです！爽やかな風が吹き、過ごしやすい季節になってきましたね。今号のSSHだよりは秋山涼風と荒木優里と伊藤恵子が担当します。今回取り上げるテーマは・・・

地域経済分析システム「**RESAS**」と、「**SSH関西科学研修**」についてです！

7月22日に、私たち文系チームは、地域経済分析システム「**RESAS**」の研修を受けました。山梨総合研究所の方々にお越しいただき、実際にコンピューターとWebを使ってわかりやすく使い方とその意義を解説していただきました。

《「RESAS」とは？》

地域経済分析システム (Regional Economy (and) Society Analyzing System) の頭文字をとったもので、国（経済産業省と内閣官房）によって作られました。国や民間企業が持っている地域経済に関わる約8億件のデータを集め、わかりやすく「見える化」したもので、無料で誰でも閲覧できるシステムです。



産業構造や人口動態、人の流れ、農業、消費額、自治体内でのお金の流れなど、色々な種類のデータを、国、県、市町村単位で見ることができ、「ビッグデータ」と呼ばれています。

《RESASの特徴》

「産業マップ」「地域経済循環マップ」「農林水産業マップ」「観光マップ」「人口マップ」「消費マップ」「自治体比較マップ」の7つから構成されており、それぞれのマップでは県や市町村を入力するだけで、一瞬で数値がグラフ化（見える化）されます。現在、今その地域がどんな課題を抱えているのかを客観的に把握することで、自治体が地方創生の為に戦略を練ったり、改善策を立てたりすることが可能になります。さらに、RESASは一つの県、市町村だけでなく、他県、他市町村と同時に比較することができるので、何が他の地域より強くて、何に弱いか比較が簡単にできます。



左の図は「**地域経済循環マップ**」より抜粋した、私たちの住む蕪崎市の経済の循環の様子を「見える化」したものです。地域経済循環率とは、地域経済の自立度を推し量る数値のことで、当該率が低いということは、この地域の所得を他エリアに頼っているという意味になります。その結果、蕪崎市の地域経済循環率は 122.9% と高い数値です。つまり他の市町村から来て、蕪崎市で消費しているという経済活動が盛んということがわかります。

RESASは誰でも無料でアクセス出来る便利なシステムです。地域に関わるデータを知りたい！といったときには、ぜひ活用してみたいかがでしょうか。修学旅行の沖縄研究にもビッグデータを活用し始めています。沖縄を多角的に分析し、科学的に比較研究するのが目標です。私たちは文系理系を問わず、データに基づき経済や文化を考える時代に生きていることを改めて感じました。

☆**RESAS**→<https://resas.go.jp/> ※Google Chrome からアクセスすると動作がスムーズです

7月25日(月)～27日(水)に「SSH関西科学研修」が行われ、2年5・6組(普通科理系・文理科)の希望者18名が参加しました。

文系チームからは1名が参加しました。

今回の研修場所と目的は、

1日目：京都大学でスーパーコンピュータ「京」を使った創薬の講義を聞く

2日目：理化学研究所でスーパーコンピュータ「京」と「SPRING-8」と「SACLA」の見学

3日目：大阪大学でクォークの講義と実験施設の見学です！



SSH 関西科学研修に参加した 2年6組理系・

向山夏音さんと、2年6組文系・小尾英廣君がインタビューに協力してくれました。(敬称略)

Q. 今回の研修で、一番興味深かったものは何ですか？

A. (向山) 「SPRING-8」と「SACLA」です。サイエンスミーティングでプレゼンの担当だったのですが、どうしたら皆にわかりやすい説明ができるか考えました。相手に伝えるためには自分がきちんと理解していなくてはならないので、調べたり友達とディスカッションしたりしました。

(小尾) 「京」です。「京」が様々な点で活用されているのがわかりました。台風の進路予測は特に印象的で、とてもリアルに情報が正確に把握できるとは凄いと感じました。

Q. 研修に参加して、自身が変わったと思うことはありますか？また、得たものは何ですか？

A. (向山) 私は部活で生物化学を中心に研究しています。正直、物理化学はニガテです。ですが、色々な専門分野を学習することで自分の研究を多方面から見るができるようになりました。高校では物化生地の分野に分かれていますが、お互いに関連し繋がっていると思います。今回の研修で新たな視点を得ることができました。また、物理への苦手意識が少し無くなりました(笑)

(小尾) 文系は物理の授業がありませんが、現在の科学技術とそれに対する科学者の研究熱意を肌で感じ取ることができ、興味が湧いてきました。日常で使っているものの多くはスーパーコンピュータで研究されていると聞き、日本の技術の進歩を思い知らされました。また、科学の視野・可能性が広がり、以前とは違う新しい視点で考えられるようになったと思います。

(文責 2年6組 秋山 涼風 荒木 優里 伊藤 恵子)